

2012

広報

おばま 11

《表紙》

園児とのふれあいを目的に、毎年、市内各保育園で実施されている「民生委員の保育士体験」。今年は雲浜・西津阿保育園で行われました。このうち、雲浜保育園では、民生委員3人が訪れ、園児と一っしょにスイートポテト作りに挑戦。こねたり丸めたりしながら、園児とのふれあいを楽しみました。

(10月15日)



【特集】 小浜線 鉄道 90 年の歩み

小浜線 鉄道 90 年の歩み



利用者が年々減少する中、今年で開業 90 年を迎える小浜線。小浜線の SL（蒸気機関車）は、昭和 46 年に姿を消しました。それから汽車と呼ばれる気動車に変わり、今から約 10 年前には電車へと変わります。今月号では、そんな小浜線の鉄道 90 年の歴史を振り返り、今後の小浜線の利用について考えます。

写真：高野悟さん提供



はじめは明治時代

JR 小浜線。敦賀～舞鶴間を運行するこの路線の始まりは、明治時代にさかのぼります。

明治維新後、日本の屋台骨である 3 府（東京から京都・大阪・神戸）を結ぶ鉄道計画が出されました。明治 25 年、国が建設すべき路線を定めた法律『鉄道敷設法』が公布。全国 33 路線が予定線に選ばれました。明治 27 年に起きた日清戦争で経済が混乱したこともあり、鉄道敷設への準備は一時中断しましたが、戦争に勝利した日本は、国際的にも地位を向上させていきます。全国で鉄道誘致、建設熱が盛り上がっていました。

小浜線は、明治 28 年 1 月に、若狭地方選出の衆議院議員・小畑岩次郎氏が帝国議会で北陸線の改正を提案。望月右内氏ほか 84 人の賛成を得て、『鉄道敷設法』の改正案が出されました。同年 3 月には、北陸線中に「京都府下舞鶴より福井懸下小浜を経て敦賀に至る鐵道」として追加され、めでたく計画路線に選ばれました。敦賀と舞鶴を結ぶため、当初は「敦鶴線」と呼ばれていました。ここから長い小浜線の歴史が始まります。



鉄道への期待

明治 30 年、旧小浜藩主酒井家につながる伯爵・酒井忠道氏や有志 46 人が資本金 39.5 万円で、小浜鉄道株式会社を設立しました。

株主について、『福井県史』通史編 5 には、次のように記されています。「明治 30 年 1 月の小浜支部扱いの確定株主 487 人のうち、若狭地方に限ると、1 株株主は、約 4 割で、10 株以下では 7 割以上にのぼる。『小浜鉄道株式会社仮定款』には、額面



つむぎ、あきらめなく

価格は 1 株 50 円（1 株につき 50 銭の証拠金）で、設立の免許下付後 1 か月以内に 5 円ずつ払い込むことが記されている。30 年の遠敷郡の農家 1 戸あたりの収穫米価は 96 円余と推定され、10 株を超える応募は容易でなかった。資金難と鉄道への期待、郡役所や町村役場を介した勧誘などを背景に、小浜町とその敷設沿線に小株主が多く誕生したのである。



資本不足、やむを得ず

路線は、小浜～大津間、小浜～余部（舞鶴）間、井ノ口～敦賀間で、若狭地方を縦横断して敦賀・大津と軍港舞鶴を T 字形に結ぶ鉄道計画でした。

明治 30 年、『仮免状』が下付されましたが、有効期間は 18 か月、その間に条件を整えて本免許を申請しなければなりませんでした。しかし、日清戦争後の恐慌の影響で株の申し込みや証拠金の納入、地方株主で負担する 1 株 30 銭の測量費の納入が滞りました。その結果、実地測量などの遅延で、期限内の本免許状申請ができず、明治 33 年、やむなく失効。民間資本での鉄道建設は、失敗に終わりました。



C5511 全線開通

大正 11 年には、高浜～新舞鶴（現東舞鶴）間を開通させ、10 年 8 か月をかけ、ついに全線が開通しました。敦賀～小浜間、小浜～新舞鶴間にそれぞれ 6 往復の列車が運転され、そ

また、敦鶴線は北陸と山陰を結ぶ日本海側のバイパス路線としての期待もあり、明治 35 年には早期着工すべき第 1 期線に昇格しました。そして、大正 4 年 5 月、敦賀側から徐々に建設が始まりました。

のうち 2 本は、京都への直通列車で、京阪地方へは 1 日で往復できることになりました。この路線は、始め『敦鶴線』と呼ばれていましたが、小浜出身の山口嘉七代議士が「小浜線と名付けるべし」と断固主張して、『小浜線』と決まりました。「小浜線開通によって中核都市として発展するか通過駅となって衰退を招くかは住民の努力次第。発展には海と鉄道を結びつけること、小浜特有の産業を育成して鉄道に結び付けることが大切。小浜から畿内に至る鉄道は絶対必要」。山口嘉七氏が語ったこの言葉は今も生きています。

小浜線歴史年表

年月日	項目
大正 6 年 12 月 15 日	敦賀～十村間開業
大正 7 年 11 月 10 日	十村～小浜間開業
大正 10 年 4 月 3 日	小浜～若狭高浜間開業
大正 11 年 12 月 20 日	若狭高浜～新舞鶴（現東舞鶴）間開業【小浜線全線開通】
昭和 23 年 7 月 23 日	福井震災 線路不通 6 日間
昭和 28 年 8 月 14 日	東小浜駅設置
昭和 28 年 9 月 25 日	台風 13 号 線路不通 32 日間
昭和 34 年 9 月 26 日	台風 15 号 線路不通 7 日間
昭和 36 年 3 月 1 日	西舞鶴～金沢間準急『わかさ』誕生
昭和 36 年 7 月 15 日	勢浜、三松駅開業
昭和 36 年 8 月 1 日	東美浜、気山、藤井駅開業
昭和 37 年 4 月 22 日	昭和天皇陛下巡幸お召し列車運転（武生～小浜、小浜～宮津間）
昭和 37 年 9 月 1 日	西敦賀駅開業
昭和 38 年 4 月 20 日	時刻表改正 西舞鶴～福井間準急『わかさ』1 号、2 号運転
昭和 39 年 6 月 20 日	若狭有田駅開業
昭和 39 年 12 月 1 日	金沢～出雲間急行『あさしお』運転
昭和 40 年 9 月 17 日	台風 24 号 線路不通 13 日間
昭和 43 年 10 月 4 日	昭和天皇陛下巡幸お召し列車運転
昭和 46 年 9 月 25 日	動力車近代化、蒸気機関車廃止、DE10 型機関車導入
昭和 46 年 10 月 22 日	SL (C58171) 小浜市に払い下げ。中央公園（大手町）に置く
昭和 48 年 4 月 1 日	三方、大鳥羽、新平野、東小浜、加斗、若狭有田、青郷各駅職員無配置となる
昭和 56 年 8 月 25 日	福井県置県 100 年記念 SL 運転
昭和 57 年 11 月 14 日	貨物列車廃止
昭和 59 年 2 月 1 日	全列車気動車化
昭和 62 年 2 月 9 日	小浜駅『みどりの窓口』設置
昭和 62 年 3 月 31 日	国鉄 115 年の幕を閉じる
昭和 62 年 4 月 1 日	西日本旅客鉄道株式会社発足
平成 3 年 4 月 1 日	小浜鉄道部発足 小浜駅リニューアル完成
平成 4 年 4 月 1 日	ワンマン列車導入
平成 11 年 8 月 14 日	嶺南地方集中豪雨 小浜線全線不通 25 日間
平成 11 年 10 月 2 日	舞鶴線電化のダイヤ改正により、急行『わかさ』廃止
平成 12 年 7 月 15 日	小浜線電化開業起工式
平成 15 年 3 月 15 日	小浜線電化開業



工事は、敦賀―新舞鶴間、約84・8^{キロ}を7つの工区に分けて請負制で施工されました。全線開通までの建設費総額は約732万円かかったとされています。買収用地は155・5^{ヘクタール}。特に、全線にわたる用地買収交渉は、府県に頼まず、全て鉄道省敦賀建設事務所が担当、いずれも円滑にまともり、『収用法（公益利益の事業のため強制的に財産権などを国家、公共団体に移すこと）』を適用したものは一つもなかったといひます。

停車場は、既設の敦賀、舞鶴を除いて12カ所を新設。うち、十村と小浜の停車場に給水の整備をしました。これが小浜駅に現存する給水塔の始まりでした。

現在、敦賀〜東舞鶴まで24の駅があり、11の駅が無人的になっています。



SL（蒸気機関車）の動く仕組みは、石炭を燃やし、その熱でボイラーの水を沸騰。その水蒸気の圧力でシ



小浜線が全線開通した後、舞鶴線との結びつきが強くなりました。その一方で、北陸本線をつなぐ直通電



形式…C 58 型 171 号
車類…ICI 過熱テンダー機関車
長さ…17.275^{メートル}
高さ…2.88^{メートル}
幅…2.95^{メートル}
動輪径…1.52^{メートル}
けん引力…最大 1,097 馬力
総重量…97^{トン}
最高速度…時速 85^{キロ}
全走行距離…2,916.5154^{キロ}
製造年月日…昭和 14 年 9 月 24 日

車はありませんでした。

昭和36年3月、金沢く西舞鶴間で準急『わかさ』が1往復の運転をスタート。これが北陸本線との最初の直通列車でした。その2年後、『わかさ』の運転区間が福井から東舞鶴く西舞鶴に変更、1往復増発されました。そして、『わかさ』のもう1往復のダイヤを利用して、翌年12月に金沢く出雲市間を小浜・西舞鶴、宮津經由で結ぶ急行『あさしお』が運転開始。こうして北陸と山陰をつなぐバイパス路線としての役割を果たしていきましました。

しかし、昭和61年11月になると、福井く東舞鶴間運転の『わかさ』が廃止。残る『わかさ』1往復は平成8年3月の山陰本線園部く綾部間の電化に伴い、京都への乗り入れが終了しました。舞鶴線が電化された平成11年10月には、『わかさ』が快速に格下げされ、その快速も現在はなくなりました。

また、小浜線沿線には海水浴場が多数あることから、昭和43年には、名古屋〜小浜〜東舞鶴間で、臨時急行『エメラルド』の運転がスタート。京都、大阪からは『おぼまビーチ』、『わかさビーチ』といった海水浴臨時列車が運行されて、にぎわいを見せた時期もありました。



リッター内のピストンを前後に動かします。そして、ピストンの往復運動を手練棒・連結棒で動輪に伝え、回転に変えることで走行しています。

しかし、ピストンを動かす蒸気は、一度押しただけで大氣中に放出されてしまうため、決して効率の良いものではなく、石炭の持つエネルギーのわずか数パーセントしか有効に活用できないといえます。

それでも、長年にわたり、形を変えながらも活躍を続けたSL。「石炭を食べ、水を飲み、息せき切って突っ走る」などと表現されることもあります。黒一色の車体で、まさに生き物であるかのように煙を吐き、汽笛を鳴らしながら走る姿に、今も多くの人魅了されています。



小浜線を53年間にわたり走り続けたSLが昭和46年10月をもって姿を消すこととなりました。昭和3年には、『ハチロク』の愛称を持つ花形蒸気機関車が登場し、昭和14年頃からは『シゴハチ（C58）』が登場、昭和36年からは気動車（ディーゼルエンジン）を動力源とする鉄道車両（ガ）が導入されるようになり、時代とともに列車は姿を変えていきました。その『シゴハチ』が小浜線から完全に消えることになります。



小浜線は今年開業90周年を迎え、また、来年3月には電化開業10周年を迎えますが、小浜線の利用者は年々減少し、現在、その存続が危ぶまれています。

市では今、スタンプラリーキャン
ペーンを始め、小学生の乗車マナー
訓練事業や小浜線を利用する人たち
への駐車場無料支援など、小浜線存
続に向けた幅広い取り組みを展開中
です。また、11月から来年3月にか
けて、電化開業10周年記念イベン
ト（下記参照）を開催する予定です。

小浜線は嶺南地域にとって大切な住民の足であり、宝です。しかし、これからも伝統ある小浜線を大切に守り育てていくためには、市民の皆さんの協力が欠かせません。地域みんなで小浜線を盛り上げていきましよう。

- 知っとるけ？小浜線ものがたり
- 小浜線の思い出
- 小浜線レール物語
- 週刊「歴史でめぐる鉄道全路線
国鉄・JR」
- 汽笛百年「ふくい鉄道史」



JR 小浜線鉄道遺産を守る会
 副会長
 にしい としお
 西井 利夫さん（74 歳・竜

鉄道遺産を後世に

『JR小浜線鉄道遺産を守る会』は、鉄道遺産の記憶が風化していくのに危機感を抱き、地元の人や旧国鉄OBを中心に、平成21年6月11日に立ち上げました。現在25人のメンバーで活動しています。これまで、小学生を対象とした写生大会や小浜線の写真パネル展、小浜線鉄道遺産体験ツアーなどを実施し、市内外からたくさんの反響の声をいただきました。元々『給水塔』を保存していこうと立ち上がった会なのですが、大正時代の駅舎が現存する『加斗駅』や『十村駅』など「近代化遺産」として残していきたいものは数多くあります。私たちの活動を通じて、より多くの人に鉄道遺産の素晴らしさを知ってもらい、少しでも保全の輪が広がればと考えています。



▲写真パネル展(10月7日)



昭和46年9月になると、この勇壮な蒸気機関車を写真に残しておこうと、多くのカメラ愛好家が小浜線の沿線に陣取り、シャッターチャンス进行を伺う光景が見られました。

これに関して、9月定例会の一般質問で畠中謙吾議員が、「小浜線なじみの深いこの蒸気機関車を保存する気がないのか」と質問。当時の鳥居市長は、「資金の都合がつけば、是非とも保存したい」と答弁し、『シゴハチ』を身請けする決意を表明しました。

その結果、昭和46年、市制20周年記念としてこれを譲り受け、中央公園（大手町）に設置。現在に至っています。



平成15年3月15日に小浜線が電化されてから、間もなく10年を迎えます。これを記念して、各種イベントを開催します。是非、ご参加ください。

【電化開業10周年記念イベント】
① オープニングイベント
とき 11月23日(金)10時～
ところ 小浜駅コンコース
内容 地域の子どもたちによる
一日駅長▼サンダーバード号に
乗って加賀温泉へ行こう！(10
年ぶりに小浜線をサンダーバ
ード号が走ります)

- ②小浜線懐かしの写真展（11月23日）金／平成25年3月28日（木）
- ③小浜線利用促進スタンブラー「小浜線に乗りっ！」（11月23日）金／平成25年1月26日（土）
- ④電車でGOコン「小浜線コン」12月1日（土）、23日（日）

■ 問い合わせ
企画課（内線345）



(昭和 60 年 6 月撮影・勢浜トンネル付近)

◀**勢浜トンネル**を出る『**急行わかさ**』号(杉森寛さん提供)
急行『わかさ』号は、当時福井～西舞鶴間と敦賀～西舞鶴間を結ぶ往復 4 本が走っていた。使用車両はキハ 58。『わかさ』号も平成 11 年 12 月 3 日が最終列車となり、小浜線から急行はなくなった。キハ 58 は、幹線・ローカル線の別なく、日本全国に気動車急行列車網を完成させた車両群である。



(平成 12 年 7 月 15 日撮影・小浜駅)

◀**小浜線電化**着工記念列車(森家治さん提供)
小浜市文化会館で開催される着工記念式典に出席する沿線各地の関係者を乗せてキハ 28 気動車 2 両による記念列車が敦賀駅～小浜駅間で運転された。小浜線電化の総事業費は約 101 億円。



(平成 15 年 3 月 8 日撮影・美浜駅)

◀**リバイバル急行『わかさ』**(森家治さん提供)
急行『わかさ』は、かつて福井～西舞鶴間を結ぶ往復 4 本が走っていた。使用車両はキハ 58。『わかさ』号は平成 11 年 12 月 3 日が最終列車となり、小浜線から急行はなくなった。小浜線電化を記念してイベント列車として 1 日のみ復活。



◀**小浜線初の電車特急『まいづる号』**(森家治さん提供)

(平成 15 年 3 月 15 日撮影・小浜駅)



(平成 15 年 3 月 15 日撮影・小浜駅)

◀**小浜線の電化完成**記念列車(田中完一さん提供)
電化完成を記念して、福井駅から小浜駅までサンダーバードの車両を使用して記念列車が運行された。小浜線の電化計画は、昭和 45 年に小浜市の総合計画に盛り込まれ、若狭湾沿岸部の嶺南地区を中心に電化を求める声が高まったのを受けて、平成 12 年 7 月から電化工事に着手、平成 15 年に電化された。直流 1500V。

※ここで掲載している写真は、すべて「鉄道友の会福井支部」を通じて提供をいただいております



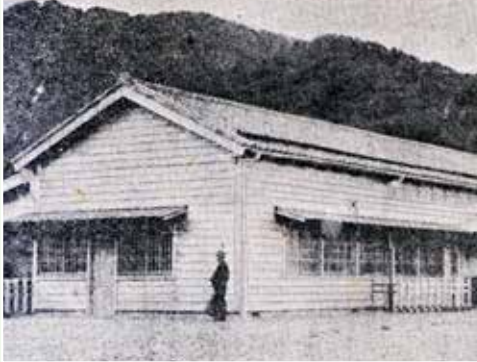
(昭和 63 年 9 月撮影・南川鉄橋)

▲**南川を渡る急行『はしだて』号**(杉森寛さん提供)
福井駅～天橋立駅間に設定された急行『はしだて』。その後、敦賀駅～天橋立駅間を結ぶ列車となる。昭和 57 年から平成 4 年まで運行されていた。



(平成 15 年 1 月 18 日撮影・上中駅)

▲**キハ 53 (左) とキハ 28 の行き違い**(森家治さん提供)



◀**開業時の小浜駅**(吉川侃利さん提供)



(大正 7 年 11 月 10 日撮影)



(昭和 40 年 6 月撮影)

◀**小浜駅開業**(福井県立博物館蔵)
小浜線は大正 4 年に着工され、まず、大正 6 年 12 月 15 日に敦賀～十村(若狭町)間が開通。同 7 年 11 月 10 日に小浜まで開通した。左の建物が駅本屋。2 両のタンク機関車とレンガ造りの給水塔。

◀**いざ出発!**(田中完一さん提供)
小浜駅を出発する C58 形蒸気機関車。ローカル線の客貨両用の 1C 1 形のテンダー機関車として昭和 13 年から 22 年にかけて 427 両が製造された。重量 58.7 トン。動輪直径 1,520 ミリ。



(昭和 56 年 8 月・粟野～東美浜間)

◀**置県 100 年記念『SL 若狭号』**(田中完一さん提供)
明治 14 年 2 月 7 日に福井県が誕生してちょうど 100 年になる。昭和 56 年にこれを記念して 8 月下旬の 1 週間にわたって、小浜線敦賀～小浜間に C56 蒸気機関車が走った。



～写真で振り返る～
小浜線 history



(大正 9 年撮影)

▲**大正 9 年の小浜駅全景**(吉川侃利さん提供)



(昭和 53 年 10 月 1 日撮影・敦賀駅構内)

▲**小浜線経由のディーゼル急行『大社』**(田中完一さん提供)
昭和 41 年 10 月 1 日の時刻改正で、名古屋～小浜線～山陰間を結ぶ急行が新設。写真は、名古屋～大社・出雲市間のキハ 28 系 4 両編成気動車急行『大社』である。

コラム

小浜駅にたたずむ円柱形の塔

小浜駅上りホームの西端にひっそりとたたずむ、円形の塔。レンガ造りのその塔の正体は『給水塔』。大量の水を必要とする蒸気機関車が走っていた時代に活躍しました。

建てられた時期は、十村～小浜間が開通した大正 7 年とされています。外径約 5 メートル、高さ 8 メートル。レトロなレンガ造りの外観は、レンガの長い面と短い面を一段ごとに交互に積んだ「イギリス積み」と呼ばれる技法が用いられ、レンガが 100 段積み上げられています。上部の鉄製タンクに水をため、水圧を利用して蒸気機関車に給水していました。

その後、レンガ製の給水塔は耐震性が弱いとされ、関東大震災以降、造られなくなりました。現在、国内には 20 基余りが現存していますが、これほど良好な状態で残っているところは少ないです。



◀小浜駅のホーム端にたたずむ給水塔